

## 目次

[今週号は 2021 年 11 月 19 日時点の情報を基に作成しています]

投資コラム	： 最近の経済指標	.....	1
日本株銘柄情報	： SHIFT (3697)	.....	2
日本株銘柄情報	： マクアケ (4479)	.....	3

## 最近の経済指標

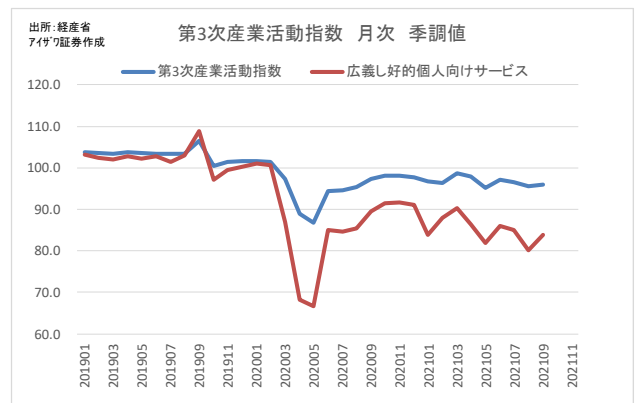
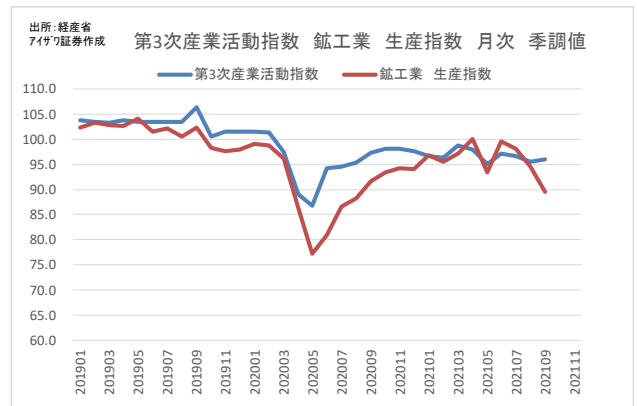
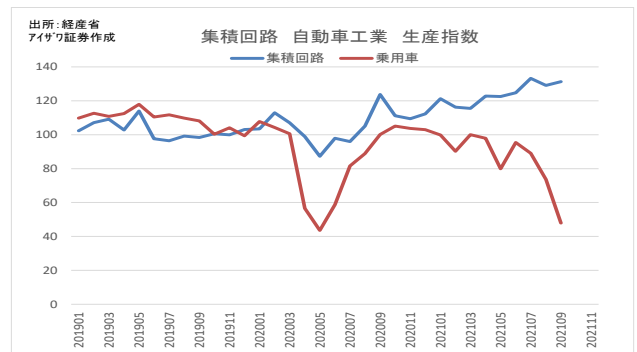
笹木 義次

直近発表された経済指標を見ると、日本経済全体の生産活動が低下している事がわかります。製造業の生産活動を示している鉱工業の生産指数は低下しています。部品調達などの供給制約を受けている自動車工業の生産指数の低下が特に目立っています。

サービス産業の生産活動を示している第 3 次産業活動指数も低下基調となっています。製造業に比べて供給制約の影響を受け難いサービス産業でも生産活動は低下しています。経済全体に占めるサービス産業の割合は約 80%程度です。構成比が高いだけに経済全体に与える影響は大きくなっています。

特に気になるのは、所得環境や景気動向の影響を受けやすい個人向けのし好的なサービスが低下している事です。

第 3 次産業活動指数の動向を見ると、供給制約が緩和されたとしても、経済全体の生産活動の回復は限定的なものになると筆者は考えています。



## SHIFT (3697)

笹木 義次

## 株価指標

株価 (2021/11/19)	28,680.0 円
売買単位	100株
市場	東証1部
時価総額	5,092 億円

## 事業内容

SHIFT は、ソフトウェアの品質保証サービスを提供しています。それに加えて、顧客企業の事業成長に貢献する「売れるサービスづくり」に取り組んでいます。ソフトウェアの品質保証サービスなら SHIFT であるという認識は高まっています。今後は、「売れるサービスづくり」の実績を積み上げることで、「売れるサービスづくり」の SHIFT として、顧客企業に想起される事を目指しています。

## 「DAAE(ダーエ)」を提唱

「売れるサービスづくり」のために、SHIFT では、独自のサービス開発コンセプト「DAAE(ダーエ)」を提唱しています。「DAAE(ダーエ)」とは、SHIFT が生み出した独自の開発コンセプトの事で、Design(設計)、Agility(迅速性)、Assembly(組み合わせ)、Economic quality(経済品質)の頭文字をとったものです。

「DEEA(ダーエ)」の頭文字は、DX に基づくサービスの開発工程で必要とされる要件を表しています。顧客体験が重視される事(デザイン)、開発速度を上げる事(迅速性)、様々な技術等を組み合わせる事(組み合わせ)、開発費用の適正化を図る事(経済品質)です。具体的にはアジャイル的な開発手法をベースに、企画、試作、検証を繰り返すことでサービスを開発します。DEEA(ダーエ)による「売れるサービスづくり」の売上高は、2021年8月期で16.1億円と前年比で3.7倍の増収となりました。

## &lt;業績の推移&gt;

決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2020/8	28,712	2,353	2,535	1,648	104.5	0.0
2021/8	46,004	3,994	4,736	2,818	162.7	0.0
2022/8計	63,000	5,700	5,700	3,700	211.1	0.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。

## &lt;投資指標&gt;

連結	
今期予想PER	136.6 倍
PBR	22.58 倍
予想配当利回り	0.00 %

## プラットフォーム事業を立上

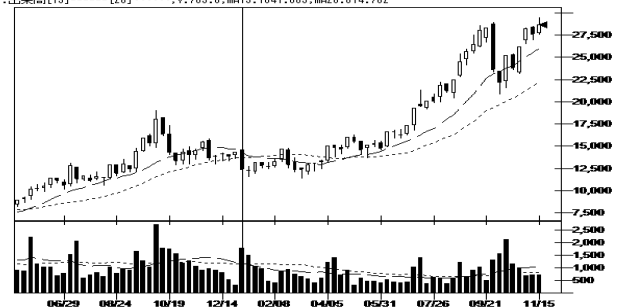
SHIFT では、IT 開発案件と IT エンジニアを直接結び付けるためにマッチングプラットフォームを構築して、エンジニアリングプラットフォーム事業を立ち上げています。

IT 業界は典型的な多重下請け構造になっています。SHIFT は、エンジニアプラットフォームを構築し、IT 開発案件とエンジニアを直接結び付ける事で、これまでの多重下請け構造の商流を変化させる事を目論んでいます。プラットフォーム事業に関する構想は、SHIFT の成長戦略の中で、重要な役割を担っていくと見えています。

## 今期も増益を予測

筆者は SHIFT の 2022 年 8 月期の業績は、売上高が 655 億円と前年比で 42.4%の増収を、営業利益は 59 億円と前年比で 47.7%の増益になると予測しています。組織能力を高めて、より多くの需要を取り込むことが可能となっていると見ているからです。組織能力を高めるために、アカウント/営業、サービス/技術、人事/採用、M&A/PMI の 4 つのキードライバーを定めて成長施策を実行しています。

5939700 SHIFT 東証1部 20/5/11~21/11/15  
 日高:21/11/19 56:28680 高:29040 安:28160 現値:28680 -140 出来高:102.4  
 4C:02/25 単純移動平均[10]-----[26]-----MA13:26024.62 MA26:22297.69  
 ST:出来高[10]-----[26]-----V:705.6 MA13:1041.055 MA26:514.762



(C) QUICK Corp. All rights reserved.

出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

## マクアケ (4479)

笹木 義次

## 株価指標

株価 (2021/11/19)	5,550.0 円
売買単位	100株
市場	マザーズ
時価総額	690 億円

## 事業内容

マクアケはまだ市場に出ていない新製品や新サービスを購入できるマーケットプレイス「Makuake」を運営しています。「Makuake」の価値向上を目指して、組織能力の向上に取り組んでいます。

## キュレーターの利用体制の見直し

マクアケは、キュレーターの利用体制の見直しを行いました。2021年9月期にキュレーターの業務負担が高まったからです。具体的には、プロジェクト1件当たりの業務量の増加や、キュレーター1人当たりのプロジェクト担当件数が増加しました。品質保証チェックを強化した事や、プロジェクトの掲載件数が想定以上に増加したからです。

## 分業制の導入

こうしたことから、マクアケでは、これまで1人のキュレーターが行っていた業務を、獲得、コンサルティング、クリエイティブの3つに分解して、分業のメリットを追求する体制に見直しを行いました。特にコンサルティングとクリエイティブに関しては、特化する事で専門的なスキルのレベルアップを図る事を目指しています。

キュレーターの利用体制は、地方拠点でテスト的に実践しました。キュレーター1人当たりプロジェクト担当件数が増加するなど、着実に成果がでました。2022年9月期から、全社で展開し本格的な運用を行います。マクアケ

## &lt;業績の推移&gt;

決算期	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株利益	1株配当
2020/9	3,225	510	512	369	33.0	0.0
2021/9	4,621	329	326	246	20.4	0.0
2022/9計	6,200	465	460	350	28.2	0.0

単位:百万円 (1株利益、1株配当は円) 計画は会社計画によります。

## &lt;投資指標&gt;

非連結	
今期予想PER	197.2 倍
PBR	10.08 倍
予想配当利回り	0.00 %

では移行にはある程度時間が必要となる事から、効果に関しては慎重に見ています。キュレーターのコンサルティング力は応援購入総額の起点となる事から、非常に重要な機能になっていると筆者は見えています。そのため今回の取り組みには注目しています。キュレーターの分業体制によるコンサルティング力の向上に期待しています。

## 運用体制の見直し効果に期待

マクアケの2022年9月期の業績計画は、応援購入総額が300億円と前年比で39.3%の伸びを見込んでいます。2020年9月期、2021年9月期と高い伸びが続いた事やマクロの消費需要の環境を考慮して、慎重な見通しとなっていると見えています。

筆者は、マクアケの2022年9月期の業績は、売上高が67億円と前年比で45.0%の増収を、営業利益は5億円と前年比で52.0%の増益になる事を予測しています。キュレーターの利用体制の見直しの効果を見込んでいるからです。

5447900 マクアケ 株価 20/5/11~21/11/15  
 日付:21/11/19 始:5510 高:5800 安:5460 現値:5550 -60 出来高:56  
 W:072定:単純移動平均[18]-----[26]-----MA13:5081.92 MA26:5439.23  
 S1:出来高[19]-----[26]-----V:467.9 MA13:364.482 MA26:522.758



(C) QUICK Corp. All rights reserved.

出所: AstraManager よりアイザワ証券作成

本資料のご利用にあたり、お客様にご確認いただきたい事項を、本資料の最終ページに記載させていただきました。ご確認の程、よろしくお願いいたします。

## 金融商品取引法に基づく表示事項

### ■本資料をお客様にご提供する金融商品取引業者名等

商号等：アイザワ証券株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第 3283 号

加入協会：日本証券業協会、一般社団法人 日本投資顧問業協会

当社が契約する特定第一種金融商品取引業務に係る指定紛争解決機関：

特定非営利活動法人 証券・金融商品あっせん相談センター（略称：FINMAC）

### 株式の主なリスク

株式は株価の変動等により、損失が生じるおそれがあります。お取引の際は、契約締結前交付書面をよくお読み下さい。

### お客様にご負担いただく手数料等について

国内株式は、取引口座に応じて以下の委託手数料（税込）をいただきます。

対面口座：約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

インターネット口座「ブルートレード」：インターネット発注 最大 1,650 円

コールセンター発注 約定代金が 55 万円以下の場合は 1,650 円、

約定代金が 55 万円超 3,000 万円以下の場合は 3,300 円

コンサルネット発注 約定代金に対し、最大 1.265%（最大 149,875 円、2,750 円に満たない場合は 2,750 円）

### 免責事項

本資料は証券投資の参考となる情報の提供を目的としたものです。投資に関する最終決定は、お客様ご自身による判断でお決めください。本資料は企業取材等に基づき作成していますが、その正確性・完全性を全面的に保証するものではありません。結論は作成時点での執筆者による予測・判断の集約であり、その後の状況変化に応じて予告なく変更することがあります。執筆担当者または弊社と本レポートの対象企業との間には、重大な利益相反の関係はありません。このレポートの権利は弊社に帰属しており、いかなる目的であれ、無断で複製または転送等を行わないようお願いいたします。

LINE公式アカウント  
はじめました！

ベトナムを中心としたアジア情報  
をお届けします。

[友だち追加はこちらから！](#)



ID : @aizawa